



喜多流自主公演

平成三十一年一月

平成31年 2月24日(日)

12:00開演(11:00開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階栈敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円(25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催:公益財団法人 十四世六平太記念財団

協力:喜多流職分会

後援:品川区、品川区教育委員会

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



綾 湯 田

鼓 谷 村

中村 佐々木多門
邦生 佐藤 寛泰

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

- ※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※平成30年度公演の後半5回分は発売中です。
- ※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ◆ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ◆お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ◆ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ◆ご利用は、表記年度中(4月～3月)の喜多流自主公演のみ有効です。青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階栈敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

能

後シテ坂上田村磨の靈
前シテ童子 佐藤寛泰

大鼓 大倉栄太郎 笛 藤田貴寛

ワキ・旅僧 則久英志
ワキ連・從僧 館田善博
ワキ連・從僧 梅村昌功
アイ清水寺門前の者 野村拳之介

小鼓 古賀裕己

後見 香川靖嗣
狩野祐一

地謡
谷 友矩 佐藤章雄
粟谷浩之 長島茂
友枝雄人 大村定
佐藤陽 狩野了一

狂言

樋の酒

シテ太郎冠者 野村万蔵

アト主 河野佑紀
小アト次郎冠者 野村万之丞

休憩(二十分)

能

シテ連朝顔 友枝雄太郎
シテ湯谷 佐々木多門

湯谷

ワキ・平宗盛 福王和幸
ワキ連・宗盛の從者 村瀬 提

大鼓 亀井広忠 笛 杉 信太郎
小鼓 森 貴史

後見 塩津哲生
松井 彬

地謡
金子龍晟 高林呻二
塩津圭介 粟谷明生
粟谷充雄 出雲康雅
高林昌司 内田成信

休憩(十分)

仕舞

船弁慶

粟谷明生

地謡
粟谷浩之
内田成信
大島政允
粟谷充雄

能

シテ連・女御 友枝真也
後シテ前同人の靈
前シテ庭掃きの老人 中村邦生

綾鼓

ワキ・臣下 宝生欣哉
アイ・臣下の從者 能村晶人

大鼓 佃 良勝 太鼓 三島元太郎
小鼓 観世新九郎 笛 松田弘之

後見 友枝昭世
内田安信

地謡
友枝雄太郎 谷 大作
谷 友矩 金子敬一郎
佐藤陽 粟谷能夫
狩野祐一 大島輝久

附祝言

終了予定時刻 五時十分頃

田村(たむら)

旅の僧が京都の清水寺に着き、爛漫と咲いている桜の花を眺めていると、桜の木の下の清めてある童子がいるので、この清水寺の縁起や名所を尋ねる。するとこの寺は坂上田村磨を檀那と頼んで建立されたと話し、旅僧と一緒に月に栄える桜の下で夜の風情を楽しむ。僧が童子に名を尋ねると童子は田村堂に消えてしまう。(中入)
僧が夜もすがら経を読んでいると、夜半に武將姿の坂上田村磨の靈が現れ、勅命で鈴鹿山の賊の討伐に向いたとき、清水寺に祈願して出陣し千手観音の助勢を受けて賊を滅ぼすことが出来たという話を物語る。
(約九十分)

樋の酒(ひのさけ)

主人は太郎冠者が酒を盗み飲みしないようにと、太郎冠者を米蔵へ、次郎冠者は酒蔵に閉じ込めて出かける。次郎冠者はさみしさをまぎらわせようと酒を飲みはじめ。それを知った太郎冠者も、酒蔵の窓から米蔵の窓の間に樋を掛け渡して、次郎冠者に酒を流してもらい酒宴を始める。すっかり二人が宴会気分になったところに主人が帰ってきて…。
(約二十分)

湯谷(ゆや)

遠江国、池田の宿の長である湯谷は、平宗盛の側に仕えていた。故郷の母の病状が思わしくなく、故郷に帰りたくいと休暇を願い出ているが、宗盛は今年の花見までは一緒に過ごそうと言って、聞き入れない。ある日、故郷より侍女の朝顔が母の手紙を持って訪れる。手紙には今生の別れの前にひと目でも会いたいと書いてあった。湯谷はその文を宗盛に見せて暇を願う。しかし宗盛は許さず、即刻花見のお供をさせる。そして一行は清水寺に花見に向かい、花の下で酒宴となり宗盛の所望で舞を舞う。周りの人々は春の装いに色めき立っているが、湯谷の心は重い。心ここに在らずも舞を舞っている、急に春の通り雨が降り、花を散らす様子を見て母への思いが募る。そしてその思いの歌を短冊にしたため、宗盛に差し出す。さすがの宗盛も哀れと思ひ、暇を与える。湯谷は喜び、宗盛が心変わりしないうちにとその場より遠江国に帰っていくのであった。
(約九十五分)

綾鼓(あやのつづみ)

木の丸御殿の庭掃きの老人が、女御の姿を垣間見て恋慕の情を抱いてしまう。臣下が女御の言葉伝える。「池辺の木に掛けた鼓を打って、その鼓の音が皇居に聞こえればもう一度会ってやろう」というのである。老人は喜び、その鼓を見つめ、鼓を打つが「綾」が張られた鼓は当然、音が出ない。なぶられたと知った老人は、嘆き悲しみ、池に身を投じて恨み死ぬ。(中入) その噂を聞いた臣下が女御へ伝える。祟りを恐れ池のほとりに顔を出すように勧める。やがて老人の靈が現れて、女御に綾の張られた鼓を打ちたまえと責めさいなむ。鼓は鳴るわけもなく、老人の靈は恨みを残したまま再び池へ消えていくのであった。
(約七十分)

平成三十一年三月自主公演番組予告

平成三十一年三月二十四日(日) 正午始
十四世喜多平太記念能楽堂

八島 谷 大作
海人 大村 定